

生活から地域社会を変える!!

～生活文化科プロジェクト～

宮崎県立飯野高等学校 生活文化科3年 伊藤 凜

1 なぜ地域社会へのアプローチなのか？（探究テーマ設定理由）

A. これまで学んできた専門力で何か役立てないか

→生活文化科では、フードデザイン、ファッションデザイン、情報、保育など生活に欠かせないスキル身につけ、学んでいる。これを地域にアウトプットできないか日々考えてきた。

B. SDGsを考えるのはまず地域から

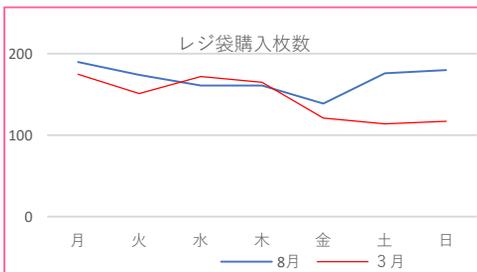
→高校に入ってSDGsについて学ぶ機会もあったが、どのゴール目標を考えてもまず自分のいる地域がスタートになると考えたし、地域、国内、海外問わず小さな取り組みが大きなことにつながっていくと考えた。

2 研究仮説

- 生活文化科の様々な活動をする中で地域とのつながりを強く感じたこともあり、飯野高生の取り組みがきっかけに社会を変える取り組みができるのではないかと。
- 自分たちの持つスキルが活かせるものでもできることではないかと。

3 調査活動

- 地域での実習活動
※課題を考える
- 地元スーパーでの調査
- えびの市社会福祉協議会への取材



4 実践

調査結果や得られた知見を基にアクションへ

コロナ禍だからこそ私たちにできること 直接活動できない期間でも制作や研究活動

アクション① 新聞バッグによるレジ袋購入数削減プロジェクト

Vison

誰でも身近にできるSDGs

- クラス全体での新聞バッグづくりの企画
- 新聞バッグを製作者を増やす作り方講習会の企画
- アルバイト先のスーパーに設置・調査

TASK

新聞バッグづくり講習会の様子

Action

- 講習会 → 飯野高生、一般の方を含め多くの製作者を増やすことができた。
- 100袋設置したバッグが0に!! 追加製作
- 強度不足の改良



5 実践後の課題

- 実践までできたことは大きな成果であったが、当初の目的でもある地域社会を変える影響をもたらすにはまだ至っていない。コロナの影響もあってなかなか思うように動けなかったこともあるが少しずつ活動も再開できているので目的達成のために今後も継続して取り組んでいきたい。

6 成果と今後の展望

- 新聞バッグによってレジ袋削減にはつながらなかった一方で、すべて消費されていたことから事後調査してみると、異なる用途で利用されていたことも明らかになった。これまでいつでも使われてきたレジ袋の代わりに使われているケースもあり代用品としての活用は今後も研究していきたい。

アクション② フードドライブプロジェクト

子ども宅食/フードドライブ

- 家庭で不要になっている食材の回収
- 子どもがいる世帯への食材配布
- えびの市社会福祉協議会との連携

えびの市文化の社などでの活動

- 多くの食材が集まり社会福祉協議会を通じて配布できた。
- この取り組みが市内の広報に掲載!!



種類	個数	概要
食品等		賞味期限
お茶漬け	1	2022.8.4
	1	2022.11.24
	2	2023.2
お茶葉	1	2022.8.30
海苔の佃煮	1	2023.10.21
	3	2022.9
鯖ほぐし	1	2023.5.1
柿の種	1	2022.3.11
うどん	1	2022.5.29
カップ麺(そば)	1	2022.5.16
シーチキン缶	4	2022.7
ビーフカレー	3	2023.8.17
チキンライスの元	1	2022.9
健康飲料	1	2022.6
お茶	1	2022.6.30
ビタミン剤	2	2022.12
カルビー	1	2022.4
カルフース	1	2022.9
サラダ油	1	2022.7.13
米(3kg)	7	
日用品等		
食器用洗剤	1	キュキュット
水筒	1	
ラップ	1	30×40cm
制汗剤	1	シーブリーズ
洗濯用洗剤	1	アタックネオ
マスク	3	ユニクロ
	100	不織布
ノート	33	